

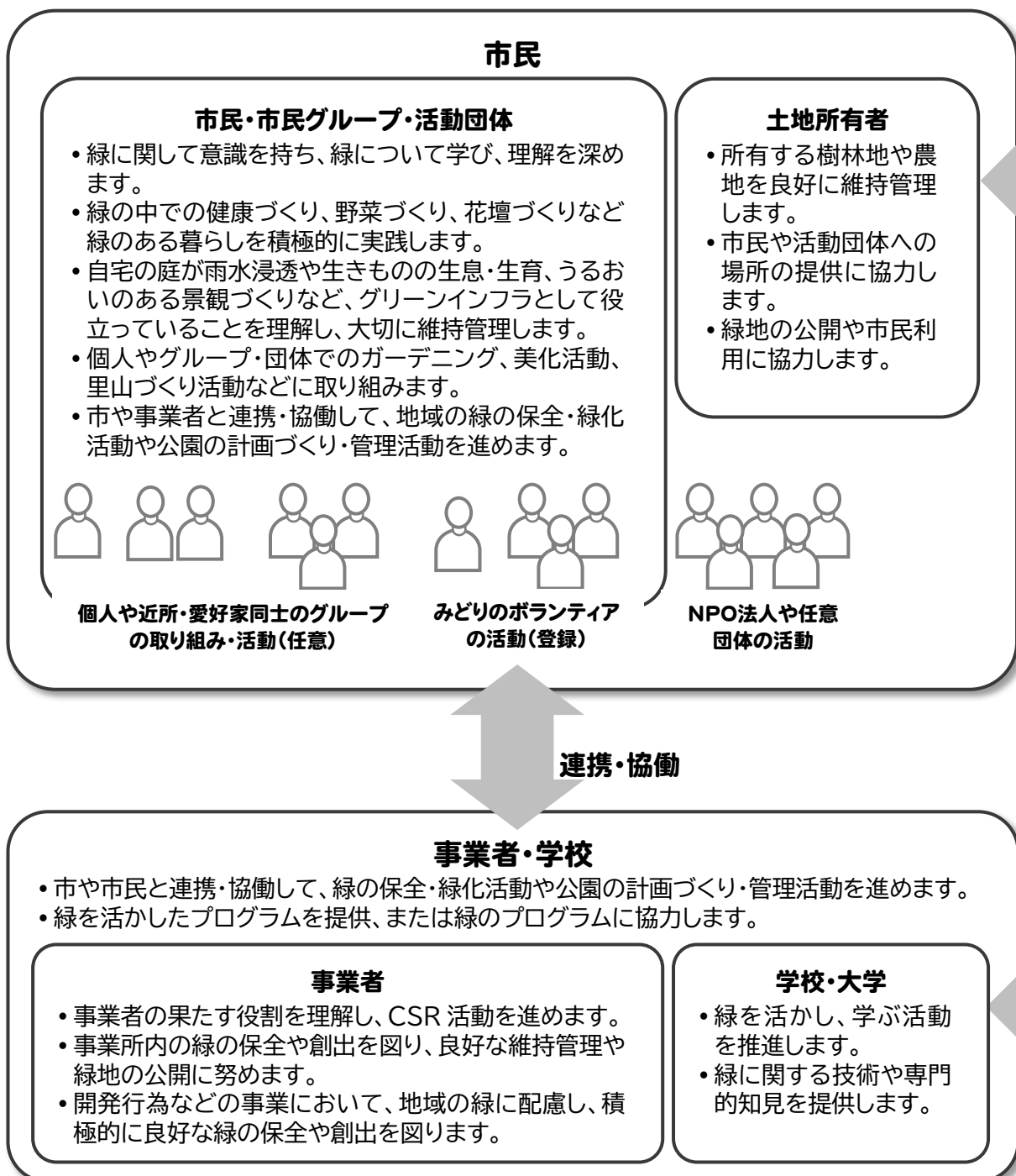
# 第 5 章

## 計画の推進に向けて

### 1. 計画の推進体制

緑の将来像を実現するためには、市民や事業者、市がそれぞれの立場で、その役割を果たし、各主体が連携・協働していく必要があります。

緑のまちづくりにかかわる各主体の役割を示します。



### みどりのネットワーク

- みどりのボランティアと市との意見交換会などを実施します。
- 市民の緑づくりをさらに進めていくために、市民との協働の取り組みや市の緑づくりの施策に関する提案や提言を行うことができる仕組みづくりを検討します。
- 重点的取り組みのうち、特に市民との協働で推進するものについては、意見交換などを行いながら検討するものとします。
- 団体間のネットワークづくりについて検討します。

みどりのボランティア  
(団体など)

みどりのボランティア  
(団体など)

我孫子市

連携・協働

### 我孫子市

- 緑のまちづくりを総合的に推進する役割を理解し、緑を保全・創出・整備・活用する施策を推進します。
- 市民や市民活動団体、事業者、土地所有者などのマッチングなど、相互の関係をコーディネートします。
- 公園や公共施設における緑の保全や整備・管理・運営を積極的に推進します。
- 緑を活かしたプログラムを提供、または支援します。
- 市民や事業者の取り組みを支援します。
- 財源の確保や活用を図ります。

#### 庁内体制の強化

都市計画をはじめ、環境や農政、観光など、関連する部局との連携の強化を図りながら、それぞれの事業や施策を実施します。

連携

国

千葉県

周辺  
自治体

- 手賀沼をはじめ、利根川や古利根沼など広域的な部分については、国・千葉県・周辺自治体との連携によって緑の創出と保全に努めます。

連携・協働

---

## 2.計画の実効性を確保するための方策

### (1)財源の確保・活用

公園や緑地、斜面林、樹林地など、緑を保全・整備するためには莫大な費用が必要となります。限られた予算を有効に活用するよう、効率的・効果的な事業の推進を図るとともに、国や県の補助制度の活用を図ります。

このほか、次の手法の利用も検討していきます。

---

#### クラウドファンディング

- 令和3(2021)年度に、緑雁明緑地内の志賀直哉邸跡に建つ書斎をクラウドファンディングによる寄付金を活用し修繕を行いました。
- 今後も、必要に応じてクラウドファンディングによる寄付金の活用を検討します。

---

#### 市民公募債

- 平成16(2004)年度に、古利根沼を市民公募債などの活用により、沼の水面約16haを買収しました。
- 今後も、必要に応じて市民公募債の活用を検討します。

---

#### 森林環境譲与税の活用

- 森林の整備、木製遊具の整備などへの活用を検討します。

---

#### 民間資金の活用

- PFIやPark-PFIやネーミングライツなど、民間資金を導入する仕組みの活用を検討します。

---

#### 緑の基金の活用

- 公園用地の確保や緑地等(樹林地、水辺、池沼など)を保全する事業を計画的に実施するため、「我孫子市緑の基金」への寄付金を積極的に募るなど積立金の確保に努めます。
- 

### (2)デジタル技術の利活用

今後のまちづくりにおいて、大学や民間事業者との連携を図りながら、デジタル技術を積極的に活用し、我孫子の緑を保全・整備・管理を効率的に行うとともに、我孫子ならではの魅力の創出を図っていきます。

### 3.計画の進行管理と見直し

本計画は、令和24(2042)年度までを計画期間としています。

また、第四次総合計画の前期基本計画・後期基本計画の終了にあわせて、施策を評価する組織を設け、施策の点検・評価を行い必要に応じて計画の見直しを行います。

これにかかわらず、施策の推移や社会情勢の変化など、新たな課題や上位計画(第四次総合計画・都市計画マスタープラン)の見直しがあった場合、計画の進捗状況を踏まえながら計画全体の見直しを行うなど、柔軟な運用を図ります。

